

多様性社会のハイオニアに期待

北鹿地域で輝いているものづくり女子を紹介した本シリーズの最終回にあたり、座談会のコーディネートをしました。縁もあり、彼女たちへのエールを込めて寄稿させていただきます。

私の一日は、朝ドラ「舞いあがれ！」から始まります。ヒロインの舞ちゃんは、東大

阪のネジ工場で働く、まさに「ものづくり女子」です。パイロットを目指していた頃、男性社会の中で奮闘する姿が描かれていました。壁にぶつかりながらも、それらを乗り越えた原動力は、「飛行機が好き」「ものづくりが好き」という強い気持ちです。そして、抱いていた憧れは、自信と誇りへと進化し、ゆるぎない覚悟をもつて、ものづくりの道を進んでいる舞ちゃんに、この地域で孤軍奮闘するものづくり女子の皆さんの姿が重なります。

いただきました。一番感じたのは、どの方も純粋に「ものづくりが好き」なんだということです。決して、華やかではないそれぞれの業種、職場で、まだまだ少数派である皆さんには、それなりのご苦労、居心地の悪さがあったというところでした。しかし、それらの課題を乗り越えて、更なる課題、新たな技術に根強く向かっている姿、黙々とものに向き合う姿は同性から見ても「かっこいい！」と感じます。

た。また、繊細さは手先の作業の感覚だけではなく、職場の人間関係の中でも発揮されています。「コミュニケーションは、女性の得意分野かもしれない。そして、女性ならではの発想の豊かさ、柔軟さも仕事の上でプラスになっているというエピソードを皆さん共通にもっておられました。

座談会の中では女性の視点で、子育てと両立できる職場の理解や制度が必要だという話題にも触れています。職場ではすでに必要とされる存在だからこそ、休めないというシレンマもあると思います。が、代わってもらえる人材を育てておくことや人手不足の解消など、企業や社会全体の問題もあります。しかしながら、若いパパ・ママ世代の子

育てへの関心は高く、園や学校の行事や参観日には、お父さんの姿が当たり前に見られ、一頃、一世を風靡した「イクメン」という言葉を敢えて使わなくてもよい世の中になつてきたことを実感しています。お父さんたちの意識の変化とともに、徐々に休暇への理解のある職場が増えてきているのは喜ばしいことです。

さて、本市は、ふるさとキャリア教育を教育理念とした独自の教育を展開して12年、全国の先導的存在となつていいます。ふるさとキャリア教育は、秋田職業能力開発短期大学の当時の木村陽一校長先生と教育委員会の熱い思いが合致し、「大館発人間力創造コンソーシアム」が設立されたことに始まります。「大館盆地を学舎に、市民一人一人を先生に」をコンセプトに、地域の企業や関係機関を巻き込んで、地域と人材を育てていく体制と風土が醸成されま

このたび、後藤校長先生の企画でこのように地元でもものづくりの道を突き進んでいる5名の女性の皆さんと出会い、女子トークの機会をいた

だきました。一番感じたのは、どの方も純粋に「ものづくりが好き」なんだということです。決して、華やかではないそれぞれの業種、職場で、まだまだ少数派である皆さんには、それなりのご苦労、居心地の悪さがあったというところでした。しかし、それらの課題を乗り越えて、更なる課題、新たな技術に根強く向かっている姿、黙々とものに向き合う姿は同性から見ても「かっこいい！」と感じます。

座談会の中では女性の視点で、子育てと両立できる職場の理解や制度が必要だという話題にも触れています。職場ではすでに必要とされる存在だからこそ、休めないというシレンマもあると思います。が、代わってもらえる人材を育てておくことや人手不足の解消など、企業や社会全体の問題もあります。しかしながら、若いパパ・ママ世代の子

育てへの関心は高く、園や学校の行事や参観日には、お父さんの姿が当たり前に見られ、一頃、一世を風靡した「イクメン」という言葉を敢えて使わなくてもよい世の中になつてきたことを実感しています。お父さんたちの意識の変化とともに、徐々に休暇への理解のある職場が増えてきているのは喜ばしいことです。

さて、本市は、ふるさとキャリア教育を教育理念とした独自の教育を展開して12年、全国の先導的存在となつていいます。ふるさとキャリア教育は、秋田職業能力開発短期大学の当時の木村陽一校長先生と教育委員会の熱い思いが合致し、「大館発人間力創造コンソーシアム」が設立されたことに始まります。「大館盆地を学舎に、市民一人一人を先生に」をコンセプトに、地域の企業や関係機関を巻き込んで、地域と人材を育てていく体制と風土が醸成されま

子どもたちは、この地域で黙々と働く大人の背中を見て、多様な職業や働き方を知り、憧れを抱き、将来の夢と自分の進路の可能性を広げています。今や、性差による体力や腕力といった不足はテクノロジーが補ってくれる時代です。職業選択に「女子だから」「男子だから」ではなく、「一人間」として、どう働き、どう生きていくか、そして、

短期大学校では、子どもたちに最新のキャリア教育の機会を提供くださいました。教育委員会には、いつでも何度でも興味ある職業を体験できる「子どもハローワーク」が立ち上がりました。子どもたちの学びの場は、学校を飛び出し、社会の本物に触れる体験が保障されるようになりました。今や職場体験も、工事現場、建築、情報、木工加工、伝統工芸、消防：これまで男性の職場と思われていた職業に、女子児童生徒が興味をもって参加しています。逆もありで、女性の多い職場である保育や看護の職場体験に参加する男子児童生徒もいます。

子どもたちは、この地域で黙々と働く大人の背中を見て、多様な職業や働き方を知り、憧れを抱き、将来の夢と自分の進路の可能性を広げています。今や、性差による体力や腕力といった不足はテクノロジーが補ってくれる時代です。職業選択に「女子だから」「男子だから」ではなく、「一人間」として、どう働き、どう生きていくか、そして、

子どもたちは、この地域で黙々と働く大人の背中を見て、多様な職業や働き方を知り、憧れを抱き、将来の夢と自分の進路の可能性を広げています。今や、性差による体力や腕力といった不足はテクノロジーが補ってくれる時代です。職業選択に「女子だから」「男子だから」ではなく、「一人間」として、どう働き、どう生きていくか、そして、

子どもたちは、この地域で黙々と働く大人の背中を見て、多様な職業や働き方を知り、憧れを抱き、将来の夢と自分の進路の可能性を広げています。今や、性差による体力や腕力といった不足はテクノロジーが補ってくれる時代です。職業選択に「女子だから」「男子だから」ではなく、「一人間」として、どう働き、どう生きていくか、そして、

大館市教委 教育研究所

山本多鶴子 副主幹

